

AFAF

ART FAIR ASIA
FUKUOKA
2025

10th Anniversary

Closing Report

開催報告書



Contents

目次

Organizer's Foreword 主催者あいさつ	04
Overview and Results 開催概要及び実績	05
Partners パートナー	06
Exhibitors 出展者	07
AFAF Special Booth AFAF Special Booth	
Feature	13
Leading ASIA	14
Masters	15
First Collection	16
SOLACHA	17
HANDS OFFLINE	18
Moment	19
Infinity	20
AFAF AWARD powered by E.SUN BANK	25
Talk Session トークセッション	29
Guide Tour 会場内ガイドツアー	32
Collaborative Program 連携プログラム	33
Pre-event / Satellite Program 事前イベント / サテライトプログラム	35
Associated Program 関連プログラム	36
AI Art Concierge AI アートコンシェルジュ	37
Benefits 特典	38
Welcome Drink & Vernissage ウェルカムドリンク & ヴェルニサージュ	39
Reception Party レセプションパーティー	40
Food & Drink フード & ドリンク	41
Private Bottle プライベートボトル	42
10th Edition 10th Edition	45
Visual Identity ビジュアルアイデンティティ	51
Products 制作物	52
Website / Social Media ウェブサイト / SNS	53
Public Relations 広報	55
Advertising 交通広告および会場周辺広告	56
Volunteer Staff ボランティアスタッフ	57
Visitor Survey 来場者アンケート	58
Organization 運営組織	59



Organizer's Foreword

主催者あいさつ

感性が躍動するアートの祭典

9月25日(木)～9月28日(日)の4日間にわたり、マリンメッセ福岡B館をメイン会場に「ART FAIR ASIA FUKUOKA 2025」(AFAF2025)を開催いたしました。

ご出展者・アーティストの皆様、ご協力をいただいたパートナーの皆様、運営・ボランティアスタッフの皆様、そしてご来場いただいた皆様に心より御礼申し上げます。

2015年、AFAFは有志の方々の情熱によって“アジアと日本をつなぐアートフェア”として誕生しました。当時、私は外から見ている立場で、「まさか福岡でアートフェアが開催されるなんて」と驚きをもってその知らせを聞いたことを覚えています。翌年、出展者として参加した私は、来場者、出展者、アーティスト、ボランティア、運営に関わるすべての方々の、このフェアへの熱い想いと期待を肌で感じ、「アートマーケットは待つものではなく、自らの手でつくるもの」であることを実感しました。

その後、運営に加わり、多くの仲間とともに歩んできた約10年。マリンメッセでの開催、福岡市との共催といった、かつて夢物語のように語っていたことが少しずつ現実となり、今日では日本有数の規模を誇るフェアへと成長しました。この節目を迎えられたのは、立ち上げに尽力された方々、出展者として、来場者として、ボランティアとして、さまざまな形で関わってくださったすべての皆様のおかげです。深く感謝申し上げます。

10回目となる今年は、まさに“進化の年”です。100を超えるブースに加え、新たな表現の場「Moment」「Infinity」、そして数年ぶりに復活した公募展「AFAF AWARD powered by E.SUN BANK」などを通じ、これまで以上に多様で熱量のあるアートの交差点を生み出しました。私たちは、アートがもたらす価値をより広く、より深く社会に届けていきたいと考えています。福岡という街から発信するこのフェアが、アーティスト、コレクター、そしてまだアートに触れたことのない人々にとって、心を揺さぶる出会いの場となることを強く願っています。

日本や世界のアートマーケットを取り巻く環境は目まぐるしく変化しています。その中で AFAFは、規模の拡大だけでなく、“福岡で開催すること”の意義を問い続けながら、挑戦と進化を重ねてまいります。これからの10年も、アートの力で人と街をつないでいけるよう尽力してまいります。

これからも「ART FAIR ASIA FUKUOKA」が、福岡・九州から日本、そしてアジアのアートシーンをつなぎ、活気づける存在であり続けるよう、多くの方々とともに歩んでまいります。今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

一般社団法人アートフェアアジア福岡
代表理事

阿部 和宣



Overview and Results

開催概要及び実績



名称	ART FAIR ASIA FUKUOKA 2025		
会期	2025年9月26日(金)～9月28日(日)		
	※2025年9月25日(木)はVIP View		
	VIP View	9月25日(木)	13:00-19:00
	Public View	9月26日(金)	11:00-19:00
		9月27日(土)	11:00-19:00
		9月28日(日)	11:00-18:00
メイン会場	マリンメッセ福岡 B 館		
サテライト会場	福博であい橋		
	福岡アジア美術館8F 交流ギャラリー		
主催	 ART FAIR ASIA FUKUOKA (一社)アートフェアアジア福岡		
共催	 福岡市 FUKUOKA CITY  Culture Vision Japan		
来場者数	15,051人(9月25日～28日、4日間合計)		
売上総額	約300,000,000円		
出展者数	96の出展者(国内ギャラリー:76 / 海外ギャラリー:7 / 企業・団体等:10 / パートナー:3) と 9つの特別企画ブースを含めた105のブースで展開		
出展アーティスト数	400名以上		
出展作品数	2,000点以上		

Partners

パートナー

協賛



制作・運営



特別協力



協力



後援

福岡県 / 経済産業省 九州経済産業局 / 公益財団法人 福岡観光コンベンションビューロー / 一般社団法人 九州経済連合会 / 公益財団法人 九州経済調査協会・BIZCOLI / 福岡商工会議所 / 福岡地域戦略推進協議会 / 一般社団法人 博多21の会 / 西日本新聞社 / RKB毎日放送 / テレビ西日本 / KBC / FBS 福岡放送 / テレQ / 台北駐福岡経済文化辦事處 / 在大阪フィリピン共和国総領事館 / 在福岡カンボジア王国名誉領事館 / 駐日マレーシア大使館 / アルゼンチン共和国大使館 / 在京インドネシア共和国大使館

ローカルパートナー



ミュージアムパートナー

福岡アジア美術館 / 福岡市美術館 / 福岡市博物館 / 福岡県立美術館 / 九州産業大学美術館 / 久留米市美術館 / 大分県立美術館

メディアパートナー

美術手帖 / Tokyo Art Beat

アートフェアパートナー

Art Fair Beppu 2025 / KOBE ART MARCHÉ

助成



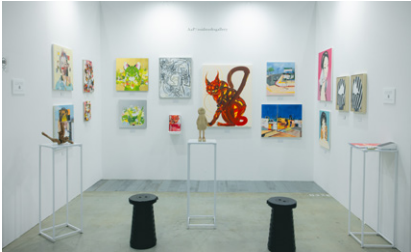
Exhibitors

出展者

国内最大級の展示面積を誇るマリメッセ福岡B館で開催されたAFAF2025では、国内ギャラリー76軒、海外ギャラリー7軒、企業・団体10組、パートナー3組に加え、特別企画の9ブースを含む計105ブースが展開されました。世界で活躍する巨匠から新進気鋭の若手まで、幅広い世代・キャリアのアーティストによる作品が会場を彩り、多様な表現と熱気に満ちたアート体験が広がりました。

Galleries 83ギャラリー

コマーシャルギャラリーによるセクションです。国内外のギャラリーが集い、世界で活躍する巨匠から新進気鋭の若手まで幅広いキャリアのアーティストの作品が展示されました。



ABC 順



ADMIRA Gallery



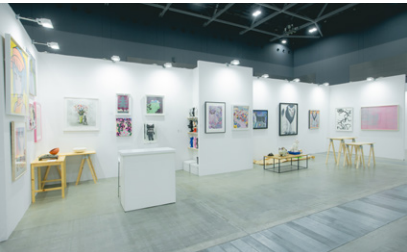
A-forest Gallery



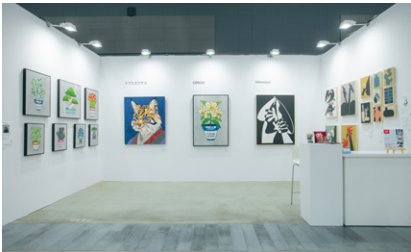
Alpha Contemporary & Alt Projects



Artas Gallery



アート・コレクション中野



Artglorieux GALLERY OF TOKYO



Art Underground



アートゾーン神楽岡



芦屋画廊 kyoto



CAVE - AYUMI GALLERY



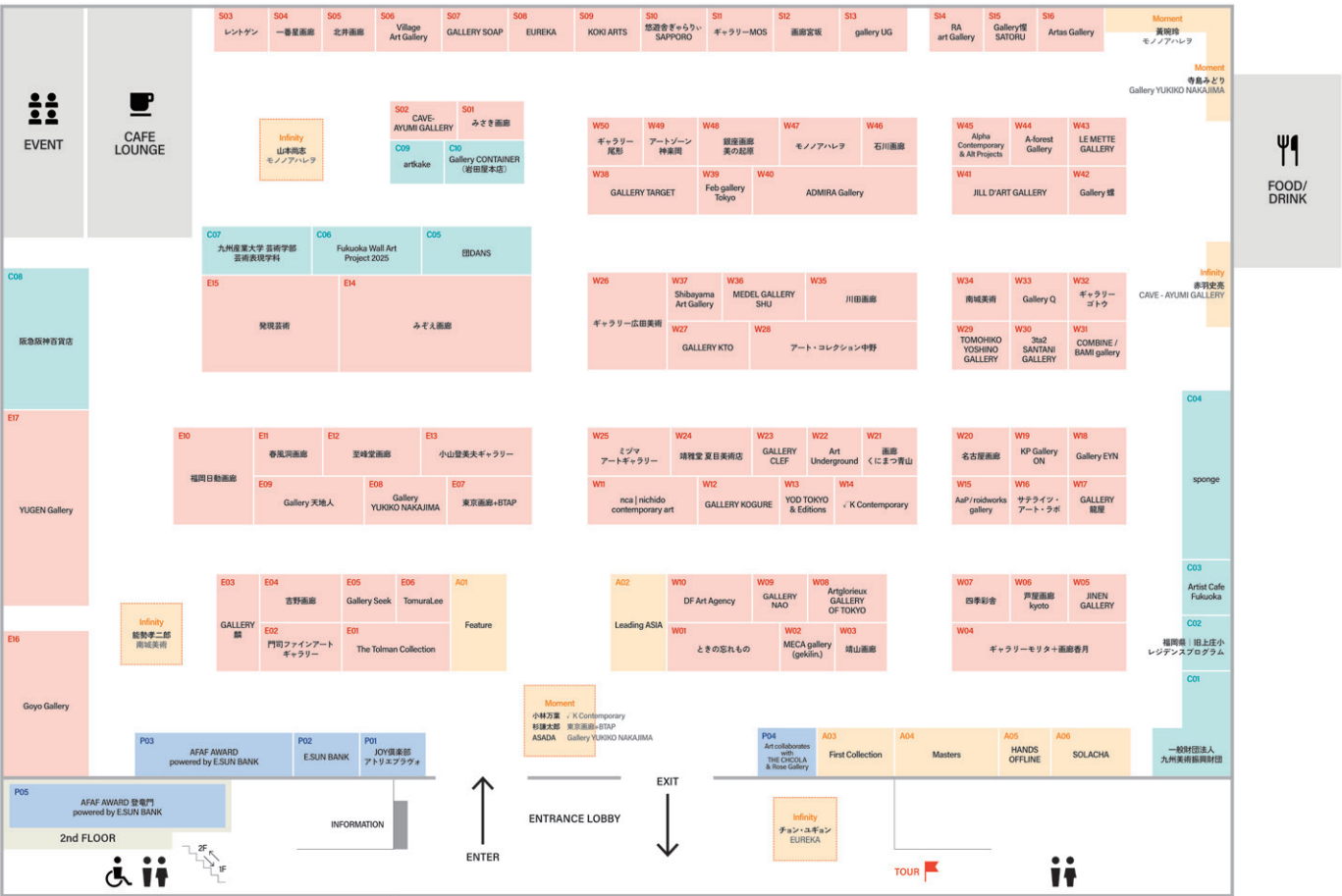
GALLERY CLEF



COMBINE/BAMI gallery



DF Art Agency





一番星画廊



石川画廊



JILL D'ART GALLERY



ギャラリーモリタ+画廊香月



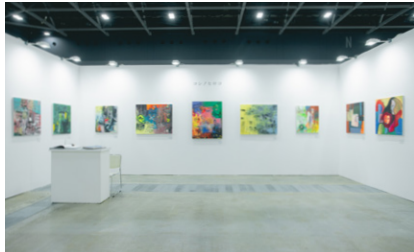
ギャラリー MOS



名古屋画廊



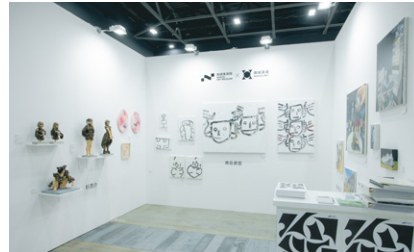
JINEN GALLERY



川田画廊



北井画廊



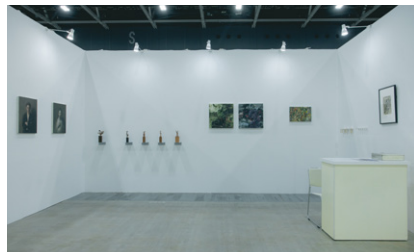
南城美術



GALLERY NAO



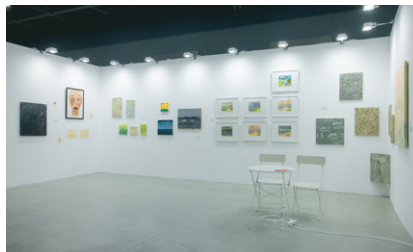
嵯雅堂 夏目美術店



GALLERY KOGURE



KOKI ARTS



小山登美夫ギャラリー



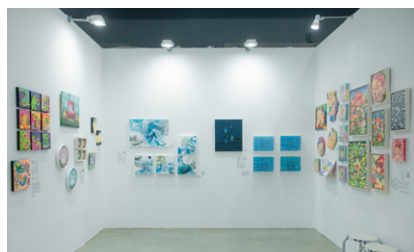
nca | nichido contemporary art



ギャラリー尾形



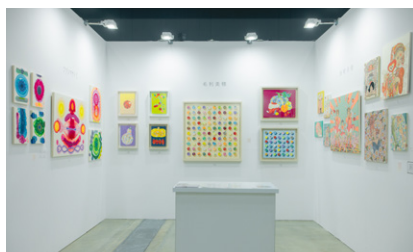
Gallery Q



KP Gallery ON



GALLERY KTO



面廊くにまつ青山



Gallery 蝶



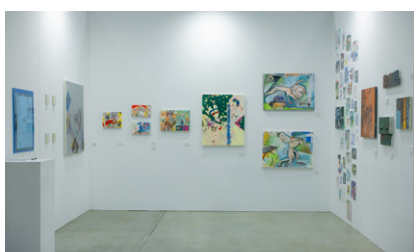
RA art Gallery



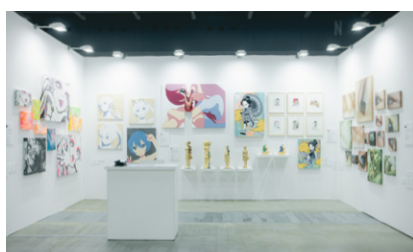
GALLERY 蝶



LE METTE GALLERY



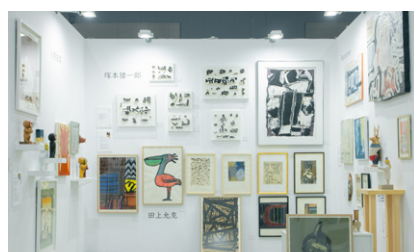
MECA gallery (gekiin)



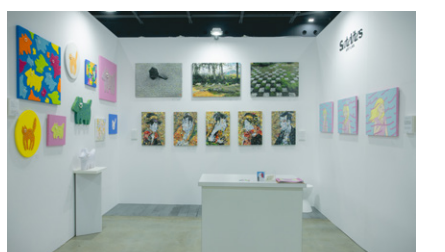
MEDEL GALLERY SHU



レントゲン



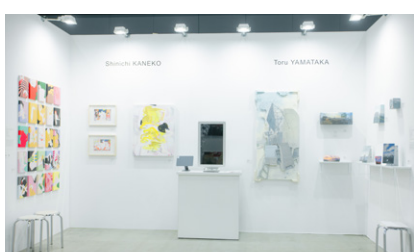
3ta2 SANTANI GALLERY



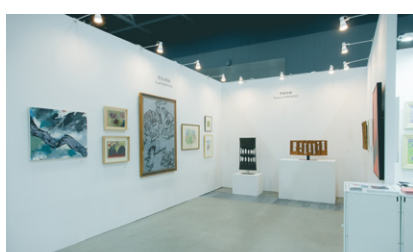
サテライツ・アート・ラボ



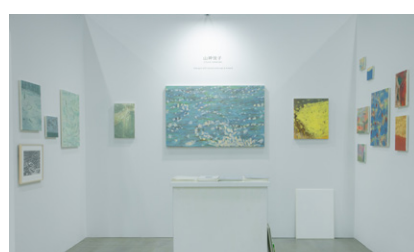
みさき画廊



画廊宮坂



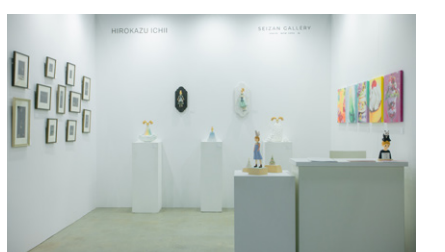
みぞえ画廊



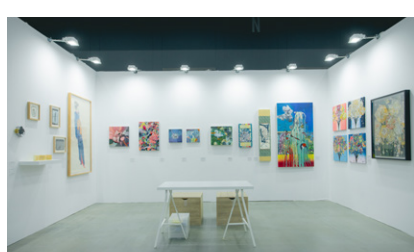
Gallery 蝶 SATORU



Gallery Seek



嵯山画廊



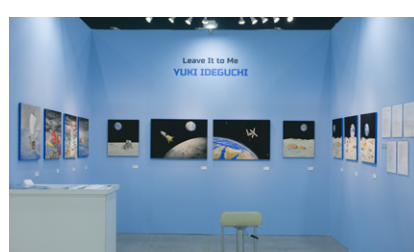
ミヅマアートギャラリー



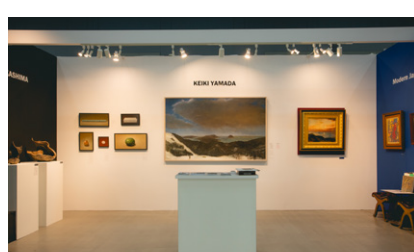
門可ファインアートギャラリー



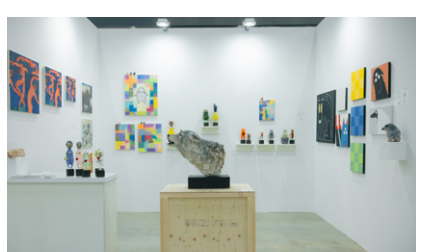
モノノアハレラ



Shibayama Art Gallery



玉峰堂画廊



四季彩舎



春風河画廊



GALLERY SOAP



GALLERY TARGET



GALLERY 龍虎



Gallery 天地人



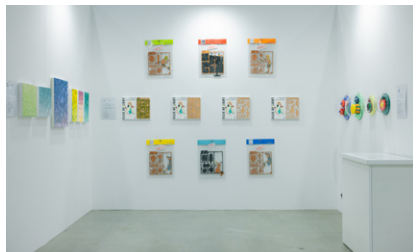
The Tolman Collection



ときの忘れもの



東京画廊+BTAP



TOMOHIKO YOSHINO GALLERY



TomuraLee



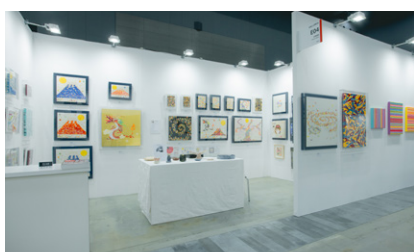
gallery UG



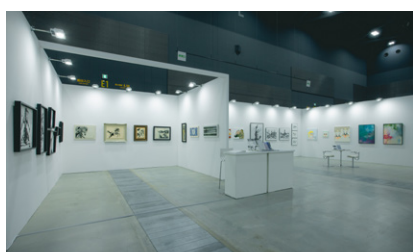
Village Art Gallery



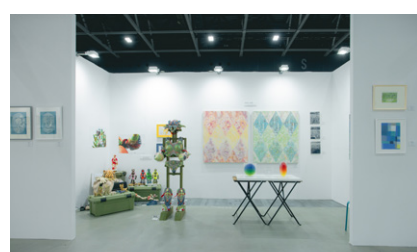
YOD TOKYO & Editions



吉野画廊



YUGEN Gallery



Gallery YUKIKO NAKAJIMA



悠遊舎ギャラリー SAPPORO



√ K Contemporary

Collaboration 行政・企業・団体による10ブース

国内外の企業や学校などによる、AFAPならではのコラボレーションセッションです。
地域に根差した企業や教育機関、アートスペースが、それぞれの視点と創造性を活かし、ギャラリーとは異なる切り口で選び抜かれた作品を展示しました。



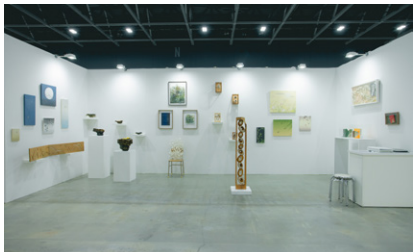
Artist Cafe Fukuoka



artkake



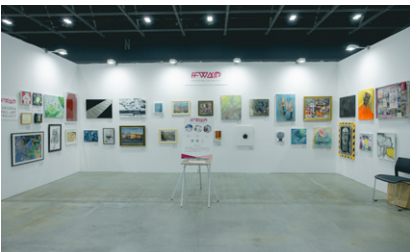
Gallery CONTAINER (岩田屋本店)



団 DANS



福岡県 | 旧上庄小レジデンスプログラム



Fukuoka Wall Art Project 2025



阪急阪神百貨店



一般財団法人九州美術振興財団



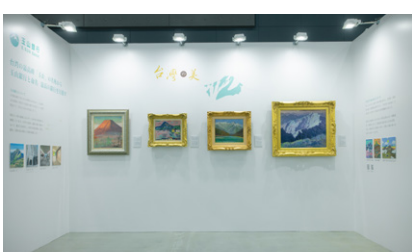
九州産業大学 芸術学部 芸術表現学科



sponge

Partner パートナーによる3ブース

AFAP2025をともに創り上げたパートナーによる特別セッションです。
AFAP AWARD 受賞者の作品をはじめ、次代を見据えた多様なアーティストや企業が、それぞれのビジョンを作品という形で提示。アートを媒介に、価値や視点が交差する場となりました。



E.SUN BANK



Art Collaboration with THE CHOCOLA & ROSE GALLERY



JOY倶楽部 アトリエブラヴ (Presented by 福岡銀行)

AFAF Special Booth

Feature



Featureブース

アジアと福岡で活躍する 2人のアーティストに焦点を当てる

アジアおよび福岡で活躍するアーティストに焦点を当てる「Feature」は、毎年AFAFの“顔”となる特別なブースです。

アジアからは、タイのチェンライ在住で国際的に注目を集めるアーティスト、ブスイ・アジョウ。

福岡からは福岡市美術館が実施した第3回福岡アートアワードで「市長賞」を受賞し、独自の視点で作品を生み出し続ける福岡出身のアーティスト、牛島 智子を紹介。

本年もFeatureアーティストビジュアルや公式グッズにも採用された作品が会場エントランス付近のブースに展開され、来場者に強い印象を残しました。

協力：
EUREKA（牛島 智子）
nca | nichido contemporary art（ブスイ・アジョウ）



エントランスに展開されたFeatureアーティストビジュアルのフォトスポット

Leading ASIA

AFAF Special Booth



Leading Asiaブース

アジアで注目されている アーティストの作品を紹介

「Leading ASIA」では、アジアの現代アートに精通した、AFAF2025 スペシャルアドバイザーである宮津 大輔氏のキュレーションによるグループ展を開催しました。

「Soaring! (飛翔)」をテーマに、アジア各国のギャラリーやアートスペースから、これから益々の活躍が期待されるアーティストを選出。今年は、A+ (クアラルンプール) から、2017年福岡アジア美術館のレジデンス・プログラムに参加したイム・イェン・サム、アートフロントギャラリー（東京）から、2023年のFaN Weekで東長寺の大型インスタレーションで観客を魅了したイ・ビョンチャンの作品を紹介しました。会期中には、パフォーマーが作品を装着して会場を巡るパフォーマンスも行われ、来場者の注目を集めました。さらに、昨年のアート・パーゼル/パーゼルでインドネシア・アートとしては初出展（個展形式ブース）を成し遂げたジュリアン・アブラハム・トガーや、ギャラリーOVO + nca | nichido contemporary artからは完売アーティストのクリスタル・ルバ（台湾）など、多彩な作品を展示しました。



イ・ビョンチャン作品 パフォーマンス

Curator Profile



Photo:Tadayuki Minamoto

宮津 大輔
AFAF2025 スペシャルアドバイザー /
アートコレクター / 横浜美術大学教授

1963年東京都生まれ。アート・コレクター、横浜美術大学教授。博士（学術）。一般企業に勤めながら収集した美術品はおよそ500点。2011年以降台湾や韓国で大規模なコレクション展が度々開催される。国内外の国際美術展や美術館での講演や著書多数。



Mastersブース

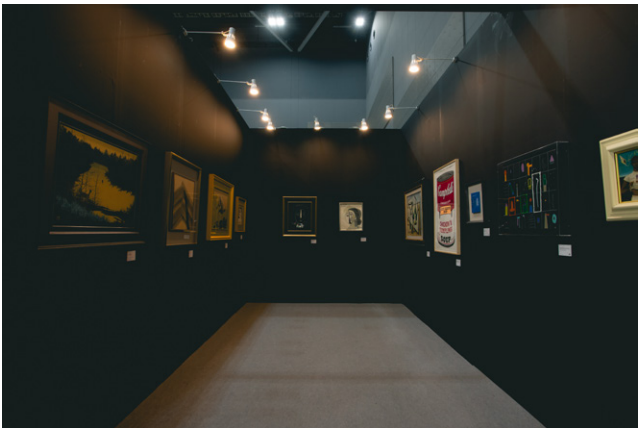
物故作家を中心に、評価の確立された著名アーティストの作品を展示

「Masters」では、物故作家を中心に、評価の確立された著名アーティストの作品を特集展示・販売いたしました。
AFAF出展ギャラリーのご協力により、価値ある特別な作品を一堂に集め、美術館のような見応えのある展示空間を創出しました。
時代を超えて受け継がれる貴重な作品の数々は、アートに馴染みのない方から経験豊かなコレクターまで、幅広い来場者にお楽しみいただける内容となりました。
また、展示作品の購入が可能である点も、アートフェアならではの大きな魅力となりました。

出品アーティスト：
アンディ・ウォーホル / 金子 國義 / 菊畑 茂久馬 / 草間 彌生 / 黒田 清輝 / 斎藤 義重 / 篠田 桃紅 / 千住 博 / 奈良 美智 / パブロ・ピカソ / ペルナール・ビュッフェ / ミズテツオ / 棟方 志功 / 元永 定正 / 安井 曾太郎 / 横山 大観 / レオナール・フジタ (藤田 嗣治)

協力：
RA art Gallery / 石川画廊 / 川田画廊 / 画廊くままつ青山 / Shibayama Art Gallery / 東京画廊+BTAP / The Tolman Collection / TomuraLee / ギャラリー広田美術 / みぞえ画廊 / YOD TOKYO & Editions

(ともに五十音順)



ブース内の様子、正面奥には14億円のピカソ作品を展示



著名アーティストの作品を間近で鑑賞する来場者



First Collectionブース

アートコレクションの第一歩となる「はじめての作品との出会い」

アートを「観る」から「持つ」へ。
アートコレクションの第一歩をテーマにした特別企画「First Collection」では、AFAF出展ギャラリーのご協力のもと、初めてアート作品を購入する方にも手に取りやすい、コンパクトなサイズと手頃な価格帯の作品を集めました。アートフェアの会場で“自分だけの一枚”と出会う体験を通して、アートをより身近に感じていただき、コレクションの世界へ踏み出すきっかけとなることを目指しました。

出品アーティスト：
今村 文 / イワミズ アサコ / 江藤 雄造 / 喜屋武 千恵 / 木須 葵悠 / GIRUVI / 甲村 有未菜 / 佐佐木 實 / 高橋 弘子 / 竹田 篤生 / 丹波 淳 / 寺尾 瑠生 / 原田 章生 / 東 麻奈美 / ひらの あつこ / フカミエリ / 福岡 さくら / 藤井 佳奈 / 淵上 直斗 / 堀 としかず / MEG / 山神 悦子 / 山下 清澄 / 山田 貴裕 / 山高 徹 / YUKEY

協力：
アートゾーン神楽岡 / Artglorieux GALLERY OF TOKYO / RA art Gallery / GALLERY KTO / GALLERY CLEF / CAVE - AYUMI GALLERY / サテライツ・アート・ラボ / Gallery慍SATORU / 3ta2 SANTANI GALLERY / Shibayama Art Gallery / TomuraLee / GALLERY NAO / 名古屋画廊 / 南城美術 / ギャラリー広田美術 / Feb gallery Tokyo / 画廊宮坂 / ギャラリーMOS / モノノアハレラ / 悠遊舎ぎやらりい SAPPORO / Gallery螺 / LE METTE GALLERY

(ともに五十音順)



手に取りやすいサイズと手頃な価格帯の作品が並ぶ



ツアー中に作品を鑑賞する来場者



SOLACHA ブース

お茶×アートのキュレーションブース

新たな試みとして、奥八女で育まれたお茶とアートの体験型ブース「SOLACHA」を設けました。アートディレクター・緑川 雄太郎氏のキュレーションのもと、会場では緑川氏による来場者へのお茶の提供も行われ、福岡の豊かな茶文化とアートを体感し、新たな発見を得る貴重な機会となりました。

AFAF会場内でもひととき存在感を放つ空間には多くの来場者が足を止め、子どもから大人まで幅広い層に親しまれる、ブースとなりました。

協力：お茶の千代乃園

Curator Profile for SOLACHA and HANDS OFFLINE

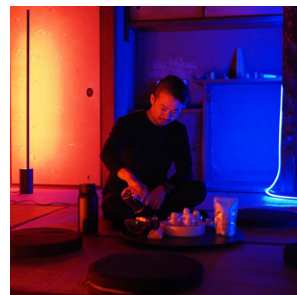


Photo: Thomas Vauthier

緑川 雄太郎
アートディレクター

1983年生まれ。2007年早稲田大学第二文学部表現芸術系専修中退。トランスヒューマニズム、ポストアントロポセン、クォンタムコンシャスネスをベースに、人類以降のアート「ART AFTER HUMAN」に関するプロジェクトを企画。現在YAP、MOCAF、UKICHAディレクター。



福岡「八女産」の煎茶・烏龍茶・紅茶が振る舞われた



NFCタグを読み込むとデジタル掛け軸が表示される仕掛けも



(左から) 古賀 崇洋 (NEO NOBORIGOI) (NEO MANEKINEKO) / 中村 弘峰 (GREAT MISSION -Flood Hazard-) / Crafcult (MONMON -kuumon-)

手の仕事に注目した キュレーションブース

福岡の地域文化や伝統工芸の精神を現代に継承しながら、独自の表現を追求する新進気鋭のアーティスト3名に焦点を当てた特別ブース「HANDS OFFLINE」は、アートディレクター・緑川 雄太郎氏のキュレーションによる“現代における人の手による仕事”を再考する試みとして企画されたものです。

インターネットがあたりまえとなった時代において、人の手が生み出す意味やその必然性、そして未来のあり方を見つめ直すことで、現代アートの文脈に新たな問いを投げかける意欲的な展示となりました。

アーティスト：
中村 弘峰 / 古賀 崇洋 / crafcult

協力：
B-OWNND



作品に見入る来場者



古賀 崇洋 (NEO NOBORIGOI)

身体表現や音を中心に、 時間と空間を活かした多様なライブアートを展開

「Moment」は、AFAF2025で初めて設けた企画です。ライブペインティングや観客参加型のパフォーマンスなど、アーティストの生の表現が会場を揺らし、その瞬間にしか生まれないアートが立ち上がる場となりました。

アーティスト：
ASADA / イ・ビョンチャン / 小林 万葉 / 杉 謙太郎 / 寺島 みどり / 黄 琬玲

協力：
アートフロントギャラリー / 東京画廊+BTAP / モノノアハレヲ /
Gallery YUKIKO NAKAJIMA / √K Contemporary

(ともに五十音順)



ライブペインティング | (左から) 黄 琬玲《貴義人》、寺島 みどり《裂けて、また立ち上がる》



杉 謙太郎《花会》



黄 琬玲《貴義人》



ASADA 《sisisi(獅子氏)》



寺島 みどり《裂けて、また立ち上がる》



小林 万葉《Human () Non-human / performance》

大型の立体作品や没入型空間で、 身体ごと感じるアート体験を創出

「Infinity」は、AFAF2025で初めて設けた企画です。大型インスタレーション作品に特化し、従来のアートフェアでは味わえないスケール感のある表現の場を展開しました。視覚や空間を通して、来場者に新しいアート体験の楽しさを届けました。

アーティスト：
赤羽 史亮 / チョン・ユギョン / 能勢 孝二郎 / 山本 尚志

協力：
EUREKA / CAVE - AYUMI GALLERY / 南城美術 / モノノアハレヲ

(ともに五十音順)



能勢 孝二郎《Concrete Blocks Garden》



赤羽 史亮《green hair/hole/skin》



チョン・ユギョン《OMURA yaki -marginal-》



山本 尚志《モーションー(The Used / The Future)》





AFAF AWARD powered by E.SUN BANK

AFAF Special Booth



AFAF AWARD (Powered by E.SUN BANK)ブース

次世代アーティストの発掘と 国際的活動支援を目指して

「AFAF AWARD powered by E.SUN BANK」は、台湾の玉山銀行（E.SUN BANK）の協賛により実施された公募展です。次世代アーティストの発掘と支援を目的に開催され、国籍・年齢・経歴を問わず幅広い層から、800件を超える応募が寄せられました。一次審査を経て選出された入選作品は、多くの来場者の注目を集め、SNSやメディアでも取り上げられるなど、大きな反響を呼びました。アートマーケットの新たな担い手を紹介する本アワードは、アジアをつなぐ新しいアートプラットフォームとして、福岡から世界へと広がるための重要な出発点となります。AFAFは今後も玉山銀行との協働を通じて、本アワードの継続的な実施を目指し、若手アーティストの国際的な活躍と成長を支援していきます。



AFAF AWARD 登竜門 (Powered by E.SUN BANK) 展示風景

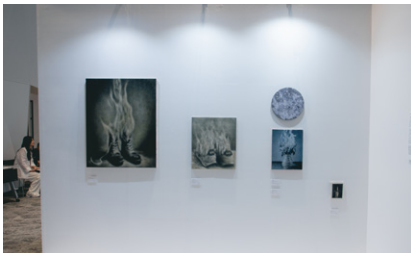
AFAF AWARD

大賞	出口 雄樹 / チョン・ユギョン
入選	おれちょ本多 / 西野 萌黄 / 宮崎 さくら
E.SUN BANK 賞	おれちょ本多
オーディエンス賞	出口 雄樹
審査員	阿部 和宣 / 岩永 悦子 / 謝 依珊 / 宋 念謙 / 結城 円 / 李 玉玲

(ともに五十音順)

AFAF AWARD 登竜門

大賞	山室 淳平
日台友好賞	張 芸家 / 林 靖格
入選	雨宮 正俊 / 安可 ANCO / 石井 佑宇馬 / 井上 康 / 柏倉 風馬 / KUMO / 古賀 雄大 / 佐野 翠 / 城間 雄一 / SHINTAROIWASA / J FISH / 鈴木 康太 / 竹田 恵子 / 床井 恵音 / 萩原 睦 / 初 英佳 / 遥人 / 藤原 收望
E.SUN BANK 賞	鈴木 康太
オーディエンス賞	古賀 雄大
審査員	阿部 和宣 / 川田 泰 / 黄 嫻嫻 / 宮津 大輔 / 森田 俊一郎 / 山本 豊津



雨宮 正俊



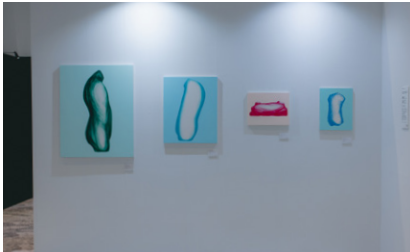
安可 ANCO



石井 佑宇馬



井上 康



柏倉 風馬



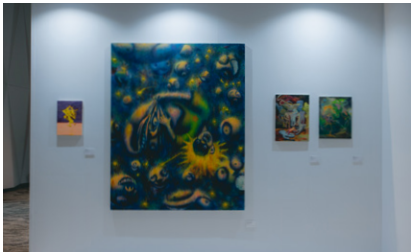
KUMO



古賀 雄大



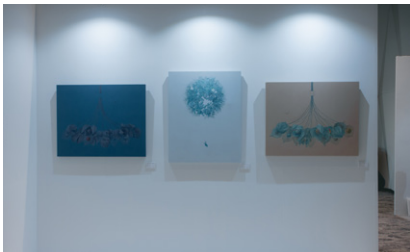
佐野 翠



城間 雄一



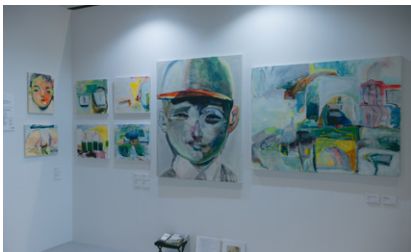
SHINTAROIWASA



J FISH



鈴木 康太



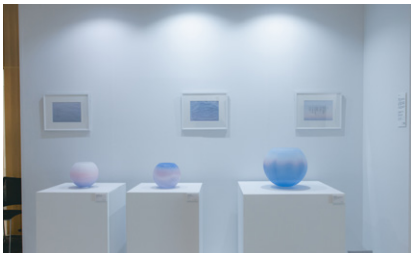
竹田 恵子



張 芸家



床井 恵音



萩原 睦



初 英佳



遥人



藤原 收望



山室 淳平



林 靖格



入選アーティストによる最終プレゼンテーションの様子
審査員の前で自身の作品について語り、大賞選出に向けた審査が行われた



「AFAF AWARD powered by E.SUN BANK」表彰式の様子
栄えある大賞を受賞したアーティストに、賞状が授与された



Talk Session

トークセッション

国内外の多彩な登壇者による 会場プログラム

AFAF2025会期中3日間にわたり、国内外から多彩なゲストを迎えたトークセッションを開催しました。アーティスト、ギャラリスト、キュレーター、アートコレクター、文化研究者、ファッションデザイナーなど、アートシーンの第一線で活躍する登壇者たちが、それぞれの視点から最新のトピックや課題、そしてアートの魅力について語りました。

また、会場にお越しいただけなかった方にもお楽しみいただけるよう、YouTube Liveによるリアルタイム配信も実施しました。

協力：yj studio

2025年9月26日 (金)

13:00-14:00

日本アート市場、再生への道筋：世界で戦うアーティストたちに学び、文化資本大国を目指す

美術評論家・建畠 哲氏、LGTウェルスマネジメント信託会長・永倉 義孝氏、AFAFグローバルエグゼクティブアドバイザー・三田 丞次氏が、日本アート市場の未来について議論しました。建畠氏は日本人アーティストの成功要因と課題を分析し、永倉氏は富裕層によるアートを「文化資本」として捉える潮流を紹介、三田氏はCSR-ARTを通じた日本企業の文化支援の可能性を提言。アートを未来への投資とする視点から、その可能性を福岡から発信しました。

登壇者

永倉 義孝 LGTウェルスマネジメント信託株式会社代表取締役会長兼プライベートバンキングジャパンCEO

建畠 哲 美術評論家 / 詩人 / 京都芸術センター館長 / 草間彌生美術館館長

三田 丞次 AFAF2025 グローバルエグゼクティブアドバイザー

14:30-15:30

台湾最新アート事情

ここ数年、ますます注目を集める台湾アートシーンについて、公立美術館や高等教育機関付属美術館の館長を歴任する李 玉玲氏と、美術と建築を横断する豊富なキュレーション経験と美術館運営の実績を持ち、現在はプライベートミュージアムである忠泰美術館の統括ディレクターを務める黃 嫻嫻氏が、縦横無尽に語り尽くしました。開館相次ぐ新しいアート・スペースやおすすめの芸術祭、そして注目のアーティストなど聞き逃せない情報が満載の会となりました。モデレーターは台北と高雄でコレクション展が開催された台湾通の宮津 大輔氏が務め、親交のある二人の本音を聞き出しました。

登壇者

李 玉玲 (リー ユーリン) アジア大学附属現代美術館館長

黃 嫻嫻 (ホワン サンサン) 忠泰美術館 ディレクター

宮津 大輔 AFAF2025 スペシャルアドバイザー / アートコレクター / 横浜美術大学教授



日本アート市場、再生への道筋：世界で戦うアーティストたちに学び、文化資本大国を目指す
(左から) 三田 丞次、建畠 哲、永倉 義孝



台湾最新アート事情 | (左から) 李 玉玲、宮津 大輔、黃 嫻嫻

2025年9月26日 (金)

16:00-17:00

福岡の現代美術史——九州派が遺したもの

1957年に福岡市で結成された前衛美術集団である「九州派」を出発点として、1990年に開始された「ミュージアム・シティ・天神」や2015年に始まった「ART FAIR ASIA FUKUOKA」など、福岡を拠点にして展開されたユニークな現代美術の歴史について議論しました。

登壇者

山口 洋三 インディペンデントキュレーター

山本 浩貴 文化研究者 / 実践女子大学准教授



福岡の現代美術史——九州派が遺したもの | (左から) 山口 洋三、山本 浩貴

2025年9月27日 (土)

13:00-14:00

アーティストは越境する。人がつなぐアジアのアートネットワークの可能性ー ジョグジャカルタのコレクティブとアーティストの視点から

アーティストの成長・交流拠点「Artist Cafe Fukuoka」による出張トークイベント。ジョグジャカルタのアートコレクティブをテーマに、アーティスト栗林 隆氏とウジ・“ハハ”・ハンドコ氏、そしてキュレーターの天野 太郎氏が登壇。越境するアートの現場からアジアのアートネットワークの可能性について語りました。

登壇者

栗林 隆 アーティスト

天野 太郎 キュレーター / 東京オペラシティ チーフ・キュレーター

ウジ・“ハハ”・ハンドコ アーティスト

モデレーター：吉田 大作 Artist Cafe Fukuoka チーフディレクター



アーティストは越境する。人がつなぐアジアのアートネットワークの可能性ー ジョグジャカルタのコレクティブとアーティストの視点から
(左から) 栗林 隆、吉田 大作、天野 太郎、ウジ・“ハハ”・ハンドコ

14:30-15:30

コシノヒロコ トークショー

世界的ファッションデザイナー・コシノヒロコ氏を迎え、特別トークショーを開催。デザインとアートの交差点を探る貴重なひとときをお届けしました。

登壇者

コシノヒロコ ファッションデザイナー / アーティスト



コシノヒロコ トークショー | (右) コシノヒロコ

16:00-17:00

工芸と現代アートの境界線を超える

数々の美術館やアートフェアで、伝統的な技術を用いながら、極めてコンセプチュアルで同時代性に富んだ表現に焦点を当てた展覧会が続いています。自らのギャラリーで陶芸、書、華の革命的な試みを紹介する東京画廊+BTAPの山本 豊津氏が、書と陶芸に関する著書がある宮津 大輔氏と、その魅力や大いなる可能性について語り合いました。

登壇者

山本 豊津 株式会社東京画廊 代表取締役社長

宮津 大輔 AFAF2025 スペシャルアドバイザー / アートコレクター / 横浜美術大学教授



工芸と現代アートの境界線を超える | (左から) 宮津 大輔、山本 豊津

13:00-14:30

現代アートにおける資本

芸術作品は、美学的な概念を表した作家の成果物であるが、その背後には芸術性で覆い隠された見えない事実があることにあまり気づかない。それは“芸術と資本”の繋がりであり、近年は現代アートを中心としたアートマーケットでその動きが一層激しくなっています。今回のトークでは、芸術と資本の関係性を示す具体的な事例を取り上げ、議論しました。

登壇者

鄭 鍾孝(チョン・ジョンヒョ) 釜山市立美術館 学芸室長 / 釜山ビエンナーレ実行委員 / 韓国キュレーター協会理事 / 前、KIAF, ART BUSAN, G SEOUL Director/ 中央日報アート事業総括

森田 俊一郎 一般社団法人アートフェアアジア福岡 理事 / Gallery MORYTA 代表



現代アートにおける資本 | (左から) 森田 俊一郎、鄭 鍾孝

15:00-16:00

現代日本美術の展開—戦後前衛からスーパーフラットへ

戦後日本の現代美術の流れを辿り、その芸術的内容と国際的意義を解説しました。戦後直後から、読売アンデパンダン展、具体美術協会、九州派、ハイレッドセンター、もの派、関西ニューウェーブ等を経て、現在の村上隆や奈良美智に至る展開を概観しました。

登壇者

秋丸 知貴 美術評論家 / 滋賀医科大学非常勤講師



現代日本美術の展開—戦後前衛からスーパーフラットへ | 秋丸 知貴



Guide Tour

会場内ガイドツアー



AFAF2025スペシャルアドバイザー 宮津 大輔によるツアー

アートガイドツアーで作品理解をさらに深める

AFAF2025会場では、AFAF2025スペシャルアドバイザーの宮津大輔氏によるガイドツアーをはじめ、学生向けツアー、子ども向けのバイリンガルツアーなど、作品の理解をより深めることを目的とした多彩なツアーを企画・実施しました。

初めてアートフェアを訪れた方から、すでに作品を購入されているコレクターまで、幅広い層の皆さまにご参加いただき、作品の魅力や背景をじっくり味わっていただきました。



日本デザイナー学院ツアー



会場内ガイドツアー



子ども向けバイリンガルツアー

Collaborative Program

連携プログラム



E.SUN BANKブース

パートナーとの協力プログラム

「Partner」セクションでは、AFAF2025を支える多様なパートナーによる展示が行われました。国内外の企業や団体、異業種との協働、さらには食文化やデザインとのコラボレーションを通じて、作品展示や体験型プログラムなど多彩な形で来場者との対話が生まれ、AFAFならではの多面的な展開が実現しました。

玉山銀行 (E.SUN BANK)

台湾の玉山銀行 (E.SUN BANK) は、2023年9月に九州・福岡支店を開設しました。日本と台湾の間で、より便利な金融サービスを提供するだけでなく、産学連携や観光、文化、芸術などの分野における交流と協力の促進も目指しています。AFAFとのコラボレーションは今回で3回目を迎え、玉山銀行のコレクションから台湾人アーティストによる絵画作品を展示。来場者に台湾の豊かな文化と美しい風景を紹介しました。

JOY倶楽部 アトリエブラヴォ (Presented by 福岡銀行)

株式会社福岡銀行は、アートを通じて障がいのある方が活躍できる社会の実現を目指し、共生社会の推進に取り組んでいます。昨年に続き、社会福祉法人JOY明日への息吹が運営する障害福祉サービス事業所「JOY倶楽部」のアート部門、アーティストが日々制作を行う「アトリエブラヴォ」による展示が行われました。障がいのあるアーティストたちが手がけた、多様で独創的な作品の数々が来場者を魅了しました。



JOY倶楽部 アトリエブラヴォ展示風景



Art Collaboration with THE CHOCOLA & ROSE GALLERYブース

Art Collaboration with THE CHOCOLA & ROSE GALLERY

会場入口のコラボレーションブースでは、「生きた記憶」と「織の記憶」と題し、スイス出身の写真家ピーター・ナツが撮影したKENZO(高田 賢三)氏のスナップ写真をもとに、山口 英夫氏がジャガード織で再構築したタペストリー作品が展示されました。東京・銀座のフラワーギャラリー「ROSE GALLERY」による真紅のバラのカーペットで彩られ、華やかな空間を演出しました。



アート・チョコレート・ワークショップの様子

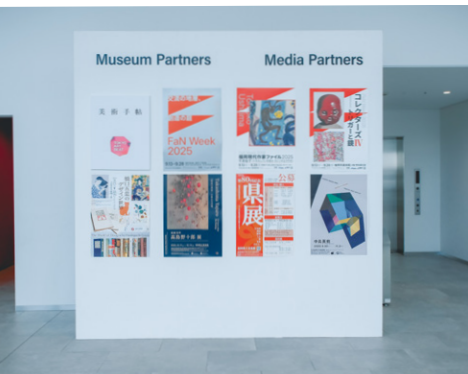
また、スイスの巨匠ショコラティエ、ウェルナー・光江・リュグゼガー夫妻による「アート・チョコレート」が登場。ピーター・ナツの作品をデザインに用いた特別なアートパッケージが販売されたほか、AFAF最終日の9月28日には、会場内イベントコーナーにてウェルナー氏による特別なアート・チョコレート・ワークショップも開催されました。



会場に沿って展示されたレクサス車両

レクサス福岡東・レクサス大野城

AFAFでは初となる、レクサス福岡東・大野城によるコラボレーションが実現しました。会場となったマリンメッセ福岡B館の外にはレクサス車両が並び、その洗練された存在感で来場者を迎え、魅了しました。



メディア / ミュージアムパートナーコーナー

メディアパートナー

今年のメディアパートナーには、美術手帖とTokyo Art Beatを迎え、さらにローカルパートナーとして、昨年に引き続きFukuoka Nowが参加しました。会場内には、これら各媒体のほか、福岡・九州周辺ギャラリーのDMや、九州各地で開催されるアートイベントのチラシ、パンフレットを配置。また、アートフェアパートナーである「Art Fair Beppu 2025」のチラシも設置し、地域に広がる多様なアートシーンを来場者へ紹介しました。

ミュージアムパートナー

福岡アジア美術館、福岡市美術館、福岡市博物館、福岡県立美術館、九州産業大学美術館、久留米市美術館、大分県立美術館、のポスターやチラシを会場に設置し、AFAF2025にご参加いただいた各館の展覧会を来場者に紹介いたしました。併せて、各館の対象展覧会への無料入場または割引入場の提供にもご協力いただきました。



オンライン販売

8月26日(火)から10月30日(木)にかけて、コレクター向けECサービス「Art Scenes」との提携により、AFAF2025出展作品のオンライン販売を実施しました。会期中に来場できなかった方や、閉幕後に作品のご購入を希望される方にもご利用いただけるよう、オンライン上で作品購入の機会を提供いたしました。

特別協力：
Art Scenes (株式会社TODOROKI)

Pre-event / Satellite Program

事前イベント/サテライトプログラム

福岡のまちをアートに染める

メイン会場のマリンメッセ福岡B館を中心に開催された本フェアでは、会場を飛び出した事前プログラムとして、中洲ジャズにてライブペインティングを実施しました。また、福岡アジア美術館・交流ギャラリーでは特別展示を同時開催し、多くの来場者にご覧いただきました。アートに彩られた福岡の街全体が、今年も特別な体験の場となりました。

Nakasu Art Session on FUKUHAKU DEAIBASHI

福岡の街を代表する音楽イベント「NAKASU JAZZ 2025」において、アーティスト・鳥越 一輝氏によるライブペインティングを実施しました。即興で描かれる制作の様子を間近で楽しむことができ、多くの観客の注目を集めました。音楽とアートが交わる新たな試みとして好評をいただき、「街にひらかれたアートフェア」を感じていただける機会となりました。

日時：2025年9月14日（日）18:00-
場所：NAKASU JAZZ 2025 福博であい橋
アーティスト：鳥越 一輝



Nakasu Art Session on FUKUHAKU DEAIBASHI | ライブパフォーマンスをする鳥越 一輝

10 pages — めくり、ひらく。

福岡を拠点に、教育者として学生を育てながらアーティストとしても研鑽を重ねる先生方をお迎えし、その多彩な作品世界をご紹介します。また、「次の10年、何を描く?」「未来に手は届くか?」という問いを掲げ、これからの10年を見つめる機会としました。鑑賞者の皆様に、光と問いかけが導く未来の景色を感じていただいた本展。ART FAIR ASIA FUKUOKA が築いてきた10年の歩みを祝福するとともに、サテライト展示として次の10年に向けた文化の風景を描き出しました。

日時：2025年9月21日（日）～9/28（日）9:30-18:00 ※金曜・土曜は20:00まで
会場：福岡アジア美術館8F 交流ギャラリー
アーティスト：国本 泰英 / 千本木 直行 / 鳥越 一輝 / 南 聡 / 百瀬 俊哉 / ロバート・ブラット

（五十音順）



10 Pages — めくり、ひらく。 | 展示会場

Associated Program

関連プログラム

FaN Week 2025との連携

Fukuoka Art Next 推進委員会（福岡市アートのまちづくり推進担当）による「FaN Week 2025」が、9月13日（土）～9月28日（日）にかけて開催されました。期間中は、福岡市美術館や福岡アジア美術館をはじめ、市内各所で多彩なアート展示が行われ、街全体がアートの熱気に包まれました。また、今年4月に天神に開業したONE FUKUOKA BLDG.では、AFAF2025のFeatureアーティストとしても注目を集めた牛島 智子氏による、“ウサギ”が主役となった大型インスタレーション作品が発表され、多くの来場者の目を惹きました。さらに、「FaN Week 2025」のメインプログラムであった福岡市美術館・福岡アジア美術館に加え、福岡市博物館も連携。AFAF2025のチケット提示により、3館の展示を無料で鑑賞できる特典が実施されるなど、アートフェアと街の文化施設が一体となった取り組みが実現しました。

FaN Week 2025 メインプログラム一覧

- 福岡市美術館**
- コレクターズⅣ ートリガーと鏡ー
- Artist Cafe Fukuoka**
- 光電獣 Yao Chung-Han: Electronic Monsters
 - 第24回 福岡アジア美術館 アーティスト・イン・レジデンスの成果展 いとなみを照らし出す
- ONE FUKUOKA BLDG.**
- 福岡現代作家ファイル2025 牛島 智子《くちなしパンを食み スピンするウサギ》
- 福岡アジア美術館**
- 福岡アジア美術館 特別展 ベトナム、記憶の風景
 - 福岡アジア美術館 ベストコレクションⅢ —— 変革の時代、新たなる自画像



福岡現代作家ファイル2025 牛島 智子《くちなしパンを食み スピンするウサギ》 | 展示会場



FaN Week 2025オープニングセレモニー

AI Art Concierge

AIアートコンシェルジュ

アート作品との出会いを手伝う AIアートコンシェルジュ

AFAF2025では、アートをより身近に感じ、誰もが気軽にアートフェアを楽しめるよう、「AIアートコンシェルジュ」を LINE アプリで展開。「どこから回ればいいのか分からない」「自分の好みに合った作品を見つけたい」といった来場者の声に応え、スマートフォンから気軽に専属コンシェルジュを呼び出せる体験を提供しました。

来場者はAIと対話しながら、「猫の作品がほしい」「花がモチーフの作品は？」などの質問を通じて、自身の興味に合った作品を見つけることができます。AIが提案した作品はオンラインプラットフォーム「Art Scenes」でそのまま購入でき、アートとの出会いから購入までをシームレスに体験できます。

さらに、イベント数の増加に合わせて「イベントハイライト」機能を追加し、注目イベントや開催情報を自動で案内。特に初来場者にとっては、AFAFをより深く楽しむための頼れるコンシェルジュとなりました。これらの新機能により、来場者にはスマートフォンを通じて、これまでにない形でAFAFを楽しんでいただきました。



会場内でAIアートコンシェルジュを使用している様子



AIアートコンシェルジュ利用例

Benefits

特典

アートフェアから広がる楽しみ

VIPパス、チケットへの各種プログラム・特典をご用意しました。

VIP プログラム

- AFAF2025 Reception Party (FaN Week & AFAF Night 2025)
- AFAF2025 Welcome Drink & Vernissage
- AFAF2025会場 特別ツアー
- ART FAIR ASIA FUKUOKA Premium Tour
協力：株式会社アイ・ダヴリュー・エイ・ツアー
- AFAF2025 VIP Tour 協力：フクオカ・アート・ニンジャ

VIP 特典

- VIP View での先行入場
- Art Fair Beppu 2025 無料招待
- ミュージウムパートナー対象展覧会への無料入場・割引入場

〈対象展覧会〉

- 福岡アジア美術館 **入場無料**
ベストコレクションⅢ 変革の時代、新たな自画像 / ベトナム、記憶の風景
- 福岡市美術館 **入場無料**
コレクターズⅣ ートリガーと鏡ー / コレクション展 近現代美術 / 東光院のみほとけ / 秋の名品展 / 仙厓展
- 福岡市博物館 **入場無料**
松永冠山と旧友泉亭杉戸絵 / 黒田家名宝展示 -官兵衛ゆかりの資料展示- / 土の中のアクアリウム
- 福岡県立美術館 **100円引き**
第80回福岡県美術展覧会（県展）
- 九州産業大学美術館 **入場無料**
中島 英樹 HIDEKI NAKAJIMA MADE in JAPAN.TOKYO, KSU edition
- 久留米市美術館 **団体割引入場**
樋口五葉のデザイン世界
- 大分県立美術館 **入場無料**
コレクション展【特集展示】竹工芸一伝統の美



AFAF2025会場 特別ツアーの様子



AFAF2025 Reception Party (FaN Week & AFAF Night 2025) | 会場の様子



ART FAIR ASIA FUKUOKA Premium Tour | 唐津焼の窯元見学

Welcome Drink & Vernissage

ウェルカムドリンク & ヴェルニサージュ



ヴェルニサージュ

美酒を片手に鑑賞できる 特別なひととき

AFAF2025のVIP Viewでは、ウェルカムドリンクとヴェルニサージュが行われ、来場者に様々なドリンクが振る舞われました。洗練さと複雑性をあわせ持ち、透明感の奥に広がる豊かな味わいが特徴のスパークリング日本酒『深星』をはじめ、エナジードリンク『レッドブル』、厳選されたワイン、ソフトドリンクまで、幅広く楽しめる多彩なラインナップをご用意しました。訪れた方々は、それぞれの好みのドリンクを手に、作品と向き合う落ち着いた時間を楽しみました。

日時：ウェルカムドリンク 2025年9月25日(木) 会場オープン時
ヴェルニサージュ 2025年9月25日(木) 16:00-
会場：マリンメッセ福岡B館
ドリンクパートナー：SAKE HUNDRED / 株式会社みぞえ



ゲストに振る舞われたスパークリング日本酒『深星』

Reception Party

レセプションパーティー

特別な空間で交流を深め、 AFAF2025開催を祝う

FaN Week & AFAF Night 2025

AFAF2025のVIP Viewが開催された9月25日(木)には、FaN Week & AFAF Night 2025(福岡市・AFAF合同)、AFAF Reception Partyを福岡アジア美術館で開催いたしました。AFAF2025共催からは、福岡市の高島 宗一郎市長、一般財団法人カルチャー・ヴィジョン・ジャパン代表理事の井上 智治氏よりご挨拶をいただきました。当日は、会場でお食事やドリンクを楽しみながら、福岡を拠点に活動するダンサー・yurinasia氏によるパフォーマンスもご覧いただきました。さらに、同館8階交流ギャラリーでは、教育者としても活躍する福岡ゆかりの6名の作家によるサテライト展示「10 pages — めくり、ひらく。」を開催し、レセプションパーティー中にご覧いただき、解説ツアーも行いました。

Dancer

yurinasia
福岡県出身・在住のダンサー、ダンスインストラクター、コレオグラファー。15歳より地元・水巻町で指導を開始。JAPAN DANCE DELIGHT vol.23 FINALIST など数々の受賞歴を持つストリートダンサー。

日時：2025年9月25日(木) 19:00-21:00
会場：福岡アジア美術館
協力：株式会社 cosa / SAKE HUNDRED / 株式会社サエキジャパン / 株式会社みぞえ



会場で提供されたフード



会場を盛り上げたダンスパフォーマンス



「福岡アジア美術館 特別展 ベトナム、記憶の風景」解説ツアー

Food & Drink

フード＆ドリンク

アートと食をともに

会場内では Art Bar や AFAF Coffee Station が設置され、特別な一杯やスイーツ、希少コーヒーを提供しました。会場外の屋外フードコーナーではフードトラックやクラフトビールも揃え、アートと食をともに楽しめる空間を演出しました。

Art Bar by Whiskey Talk FUKUOKA

九州最大のウイスキーフェス「ウイスキートーク福岡」がプロデュースする「Art Bar」では、中洲のオーセンティックバー「Bar Higuchi」が来場者に特別な一杯を提供しました。
九州派の実質的リーダーとしてグループの活動を取り仕切った桜井 孝身(1928-2016)とブレンデッドモルト〈スコッチウイスキー〉がコラボレーションした AFAF Private Bottle Series の試飲・販売、オリジナルカクテルやチョコレートの販売をしました。

協力：ウイスキートーク福岡 / Kyoto Fine Wine and Spirits 株式会社 / CHOCOLATERIE MARQUE PAGE



Art Bar by Whiskey Talk FUKUOKA ブース

AFAF Coffee Station

希少なブラジル・ゲイシャや焙煎度合いで選べるブレンドコーヒー、デカフェ、エスプレッソドリンクなど、多彩なメニューを提供しました。
また、ドリップバッグやドリッパーセットなどのグッズ販売も行い、ラデュグーテのケーキやマツパンのパンとともに味わえる特別なカフェ空間となりました。
会期中の一部日程では、来場者向けにコーヒーを特別価格で提供し、多くの方々にご利用いただきました。

協力：CLICK COFFEE WORKS / コーヒープランナー株式会社 / ラッキーコーヒーマシン株式会社



AFAF Coffee Station ブース

屋外フードコーナー

福岡クリスマスマーケットやアジアマーケットフェスタなど、多彩なイベントを手掛けるサエキジャパンが、屋外フードコーナーをプロデュース。厳選されたキッチンカーが並び、今年は九州発の「プレアデスビール」をはじめ、ドリンクも充実。食とアートが融合した、にぎやかで魅力的な屋外空間を演出しました。

特別協力：株式会社サエキジャパン



屋外フードコーナー

Private Bottle

プライベートボトル

アートを纏った特別なブレンデッドモルトウイスキー

九州最大のウイスキーの祭典「ウイスキートーク福岡」とのコラボレーションによって生まれた、アート×ブレンデッドモルトウイスキーの特別企画「AFAF Private Bottle Series」。
コラボレーションを通じて、芸術体験をより多層的に楽しんでいただくことを目指し、2024年より始動しました。

第2弾となった本年は、Collaboration セクションの展示企画「持続するスピリッツ 九州派のアーティストたち」(C01 一般財団法人九州美術振興財団) から「九州派」をピックアップ。戦後福岡で誕生した前衛美術集団「九州派」の実質的リーダーとして知られ、近年再評価が進み注目を集める桜井 孝身(1928-2016) の作品《手(日本風景)》(1957) をラベルに採用しました。

ボトルングには、乾いた土やウッドスパイス、黒糖を思わせる力強さと奥深い味わいを持つ個性的なブレンデッドモルト〈スコッチウイスキー〉(#47/ アルコール度数46.1%)を使用しました。(セレクトター：樋口 一幸 (Bar Higuchi))

作品の力強さに呼応する、深い甘みと個性が際立つ味わいを備えた限定120本のプライベートボトルは会場内「Art Bar」およびオンラインで販売され、好評を博しました。

プライベートボトル | 桜井 孝身《手(日本風景)》(1957)
ブレンデッドモルト〈スコッチウイスキー〉#47 2002 21年 46.1%

蒸留年：2002 / 瓶詰年：2024 / アルコール度数：46.1% / ボトリング本数：120 / 熟成樽：ブレンデッドモルト

協力：一般財団法人九州美術振興財団 / ウイスキートーク福岡 / Kyoto Fine Wine and Spirits 株式会社



Art Bar by Whiskey Talk FUKUOKA ブースでドリンクを楽しむ来場者



10th Edition

10th Edition

10回目の開催を迎えて

今年、ART FAIR ASIA FUKUOKAは記念すべき10回目の開催を迎えました。節目となる今年
は、これまでの歩みを振り返る「10th Edition」展示を会場内に設け、2015 年の創設から現在
に至る軌跡と、ART FAIR ASIA FUKUOKAの成長を支えてきた関係者からのメッセージを
紹介しました。これまで支えてくださったギャラリー関係者、アーティストの皆様、ご協賛・ご
協力関係者様、そして来場者の皆様とともに築いてきた約10年間の積み重ねと、未来への想
いが交錯する展示となりました。

MESSAGES



■ 阿部 和宣
一般社団法人アートフェアアジア福岡 代表理事 /
みぞえ画廊 専務取締役

このたびART FAIR ASIA FUKUOKA 2025が記念すべき10回目の開催
を迎えられること、代表理事として、そしてアートと福岡を愛する一人とし
て、大変嬉しく思います。これまで支えてくださった全ての関係者様に深
く御礼を申し上げます。
2015年、AFAFは複数の有志の下、“アジアと日本をつなぐアートフェア”
として産声を上げました。当時係わっていなかった私は、「まさか福岡で
アートフェアが開催されるなんて」と言う驚きとともにその知らせを聞いた
のを覚えています。2回目から出展者として参加し、それ以降運営にも携
わる様になり、来場するお客様、出展者、アーティスト、ボランティア、運営
に係わる全ての方々の、このAFAFへの期待を肌で感じました。その想いの
輪は年々広がり、大きな力となり、社会をも変え、今や日本有数の規模
となるフェアへと成長しました。10年という節目を迎える今年は、さらなる
“進化の年”です。これまで以上に多様で、熱量のあるアートの交差点を
つくり出します。私たちは、アートがもたらす価値をもっと広く、もっと深
く社会に届けていきたいと考えています。福岡という街から発信するこの
フェアが、アーティスト、コレクター、そしてまだアートに触れたことのない
人々にとって、心を揺さぶる出会いの場になることを強く願っています。日
本や世界のアートマーケット、アートフェアを取り巻く環境は目まぐるしく
変化しています。そんな中、今後のAFAFは規模だけでなく、福岡で開催
することに真の意義を持つ形を追求し、挑戦と進化を続けていきます。こ
れからの10年に二期待ください。



■ 高島 宗一郎
福岡市長

官民共同で開催するART FAIR ASIA FUKUOKAは、今回で10回目を迎
えます。福岡市は、暮らしの中で身近にアートに触れる機会を増やすと
ともに、アーティストの成長支援に取り組む「Fukuoka Art Next」を推進し
ています。アートフェアに合わせて開催している「FaN Week 2025」では、
福岡市美術館や福岡アジア美術館、アーティストカフェ福岡など市内の
様々な場所でアートに触れることができます。是非、多くの方にフェアや
展示会場にお越しいただき、世界の現代アートに出会っていただくと
ともに、福岡で数々の交流が図られることを期待しています。



■ 井上 智治
一般財団法人カルチャー・ヴィジョン・ジャパン 代表理事

ART FAIR ASIA FUKUOKAが第10回という節目を迎えられたことを心よ
りお祝い申し上げます。
本フェアは、日本からアジア、そして世界をつなぐ国際的な交流の場とし
て着実に成長し、地域とグローバルを結ぶ大きな役割を担ってきました。
今後はさらに、福岡から発信する独自の視点やネットワークを活かし、多
様な文化や価値観を取り込みながら、次世代へ新たなアートの潮流をつ
くり出していくことを期待しています。カルチャー・ヴィジョン・ジャパンも
その歩みに寄り添い、ともに未来を切り拓いてまいります。



■ 森田 俊一郎
一般社団法人アートフェアアジア福岡 理事 / ギャラリーモリタ 代表

「嘘ばかりの誤った世に生きる諸賢に、うむを言わずさ美を突きつきたい。」
2016年、本フェアに余命一カ月で登壇した画家・堀越千秋が著書『美を
見て死ぬ』に遺した言葉です。初期のAFAFロゴは、彼がコンピューター
で再現できない「唯一無二の美」にこだわり、手描きで制作したものでし
た。この言葉と姿勢は、2015年アートフェアアジア福岡 [AFAF] を立ち上
げて以来、私の心に一貫して息づく信念です。今も昔も人々の美意識は社
会の成熟度を映し出すバロメーターです。芸術文化への理解と関心の深
さは、経済的豊かさと同じ、社会の質を支える重要な要素です。アートフェ
アは現代アートという切り口を通じて、来場者一人ひとりの美的感覚を刺
激し、感性や価値観に新たな視点をもたらす場を提供してきました。とき
に驚きや遊び心を変えながら文化的素養を育む力さえ備えています。現
代アートに対する国内の関心は、欧米やアジア近隣諸国と比べ依然として
充分とは言えません。だからこそ、AFAFが担う役割の意義は年々高まっ
ていると強く感じています。国際的なアーティストやギャラリーとのネット
ワークを広げ、次世代のコレクターを育成し、持続可能なアートマーケッ
トを築くことは、今後の日本社会にとっても極めて重要な取り組みだと確
信しています。豊かさを感じられない社会に誰が生きがいを感じるでしょ
うか。
また、高島市長は創造社会の重要性を高く掲げ、福岡市が共催するAFAF
は国内外でも稀有な存在となっています。その先進的な取り組みは、国内
はもちろん海外からも羨望のまなざしを集めています。AFAFは、この10
回を一つの節目と捉え、さらにその先を見据え、芸術と経済、個人と社会
をつなぐプラットフォームとして、より多彩な価値の創出に取り組んでゆ
く所存です。ご来場いただく全ての方に、心動かされる美との出会いがあり
ますように。そして新たな価値観や生きがいが見つかる、未来のきっかけ
になればと願っております。



■ 井上 雅也
一般社団法人アートフェアアジア福岡 理事 /
株式会社TODOROKI 代表取締役

これからも、福岡らしく挑戦し続けるアートフェアで—
AFAFに関わり始めたのは2018年からです。当時はホテルを会場として、
ボランティア中心のアットホームな運営でした。そして、私もボランティア
の一人でした。その後本格的に運営を任せていただき、福岡らしいグルー
カルなアートフェアを目指して毎年様々なことに挑戦してきました。
10回目という節目での大きな挑戦の一つが、公募展「AFAF AWARD
powered by E.SUN BANK」です。福岡でアートのまちづくりが進んでい
くなか、福岡九州で急速に“プロ”のアーティストをめざす方々が増えてい
るのを肌で感じています。そして、すでに幅広く活躍しているアーティスト
の方々もいます。一方、東京に比べ、ギャラリーやアート関係者との出会い
の機会は限られています。そのなかで、AFAFとしての役割を考え「ご縁が
生まれる場をつくりたい」そうした想いから生まれたのが今回の公募展で
す。そして、これは「アーティストを目指せる世界をつくりたい」という私個
人の夢に向けた一歩でもあります。
こういった取り組みを通して、福岡から将来のアートシーンをつくっていく
アーティストが生まれていくことを願っています。これからもAFAFが、福
岡・九州・日本のアートに携わる方々にとって希望や可能性を見いだせる場
所であり続けられるよう、挑戦し続けてまいります。これまでのご協力に心
から感謝を申し上げるとともに、引き続きご支援を賜れますと幸いです。



Photo: Tadayuki Minamoto

■ 宮津 大輔
AFAF2025 スペシャルアドバイザー / アートコレクター /
横浜美術大学教授

福岡出身の伴侶を得てから30年、その間、福岡アジア美術館の開館や
ミュージアムシティ天神の開催といった福岡におけるアジアの現代アート
と共に、私自身も歩み続けて来ました。2016年、ホテルオークラで開催
された第2回にはコレクターとして参加し、翌年からはアドバイザーとして
AFAFに関わり続けてきました。
現在、世界には300以上のアートフェアが存在しています。しかし、残念な
がら大半のフェアは、10年を迎える前に消滅あるいは休止状態となってお
ります。AFAFはコロナ禍で一度中止を挟みながらも、年々規模を拡大し、
ここ数年はマリンメッセや国際会議場といった福岡を代表する展示会場
での開催を続け、今回第10回を迎えられたことは、世界的に見ても稀有な
ことだといえるでしょう。
アドバイザー就任後は、日本で開催されるフェアに、今まで出展実績がな
かったような国内外の一流ギャラリーを誘致してきました。私自身もコレ
クターとして、毎年何点もの作品をAFAFで購入し続けております。
アートフェアは作品売買の場であり、主役は作品を購入される来場者の皆
様方です。AFAFが次の10年間も無事開催されるには、そして、福岡がア
ジアにおける文化的中核都市の一翼を担えるか否かについては、皆様の
作品購入次第と申し上げても過言ではございません。会期中、フェアを、
そして福岡の街を大いに楽しんでいただき、気に入った作品に出会ったな
らば、どうぞお家に連れて帰って下さい。
AFAF第10回の開催、おめでとうございます。



会場に設置された10年の軌跡とコメントが寄せられたコーナー



Visual Identity

ビジュアルアイデンティティ

「何かが生まれる瞬間」を可視化した
AFAF2025メインビジュアル



フライヤー

AFAF2025のメインビジュアルは、「何かが生まれる瞬間」をテーマとし、視覚的に表現しています。
「人×アート」「アーティスト×コレクター」「福岡×アジア」など、さまざまな関係が重なり、新たな価値が生まれる。そのプロセスを、円と円が交わり新しい形を生むモチーフとして表現しました。重なりから生まれた形状は、偶発的でありながらも力強く、動きや拡張を感じさせるものに設計しました。
アートに関わるすべての人 — コレクター、アーティスト、ギャラリー、

来場者、美術館、行政、美術大学、キュレーター — が交わる瞬間に生まれる熱やエネルギーを、赤とオレンジを基調としたグラデーションで可視化しています。

AFAFが掲げる、アートを通じて心が動く体験を提供するという姿勢を「感性が躍動するアートの祭典」というキャッチコピーに込めました。この言葉を起点に、ポスターやサイン、デジタルバナーなど、すべての媒体で一貫したトーンと熱量を持たせました。

Products

制作物

AFAF2025を盛り上げるアイテム

印刷物

ポスター / フライヤー / 三つ折りフライヤー / リーフレット (日本語・英語・中国語 [繁体字]) / VIP 招待状 / VIP 招待状封筒 / 招待券 / チケット / ネックパス 他

グッズ

Tシャツ / トートバッグ / ステッカー

会場サイン



三つ折りフライヤー



各種チケット



リーフレット

Website / Social Media

ウェブサイト / SNS

オンラインで最新情報を届ける

ウェブサイト

AFAF2025の最新情報を取得可能なプラットフォームを目指し、出品作品やプログラムの情報を常時アップデートしてお届けしました。
また Art Scenes と連携することにより、展覧作品をオンラインで購入できる仕組みを構築しました。さらに VIP / INVITATION 用ポータルサイト機能を備え、特別な情報を招待者に提供いたしました。

サイト閲覧数

合計：201,000 (前年比111%)

国内：196,017

国外：4,983

* 期間：2025年9月1日～10月1日



ウェブサイト (PC/スマートフォン)

SNS

開催情報や関連イベントなどの最新情報のほか、展覧ギャラリーや展覧アーティストの情報をご紹介しました。期間中は#AFAF2025にて、出展者や来場者から会場の様子が連日シェアされました。

SNSフォロワー数 (前年比127%)

Instagram：12,697

X (旧 Twitter)：2,391

Facebook：1,536

* 2025年10月1日 時点



SNS(スマートフォン)



Public Relations

広報



メディアの取材を受ける代表理事

多くの人にフェアの魅力を届ける

メディアパートナーである美術手帖やTokyo Art Beatをはじめ、会期中も多くのメディアにAFAF2025を取り上げていただきました。

【メディア掲載】 計 55件 (2025年9月26日～11月25日 時点) ※掲載実数換算

TV(ニュース番組 他) 計 9件

テレビ西日本 (TNC)

「グランドメゾンPRESENTS rich time, art life ～アートのある豊かな暮らし～」(特別番組 9/21 OA) / 記者のチカラ (9/25) /

ももち浜ストア「あべちゃんカメラが行く」生放送 (9/26 朝) / 報道枠 (9/26)

NHK 日本放送協会 (9/26) / KBC 九州朝日放送 (9/25) / RKB 毎日放送 (9/25) / TVQ 九州放送 (9/25) / FBS 福岡放送 (9/25)

ウェブメディア 計 32件

読売新聞オンライン / 日本経済新聞 NIKKEI COMPASS / 東京新聞 (Web版) / 山梨日日新聞デジタル /

宮崎日日新聞デジタル / 西日本新聞 me / Yahoo!ニュース / めざまし media / テレ東プラス / RKB 毎日放送 (Web版) /

日本文芸社 ラブスポ / レッツエンジョイ東京 / 美術手帖 / ARTnews JAPAN / Tokyo Art Beat / ARTNE /

アイエム [インターネットミュージアム] / 個展なび / ゆめ画材 / koubo / MIRAI / アイビーデジタル(データ・マックス) /

ストブレ / FaN Week 2025 / 博多経済新聞 / 天神経済新聞 / FUKUOKA NOW / シティ情報ふくおかナビ /

Living 福岡 / 福岡市ホームページ / 福岡市政だより / 福岡市観光情報サイト よかなび

雑誌 計 9件

アートコレクターズ / 月刊美術 10月号「秋展 NAVI」(9/20発売) / Discover Japan / 25ans(ヴァンサンカン) /

Harper's BAZAAR 2023年12月号 (art 特別版) / シティ情報 Fukuoka / 月刊はかた / 九州王国 / 財界九州

新聞 計 4件

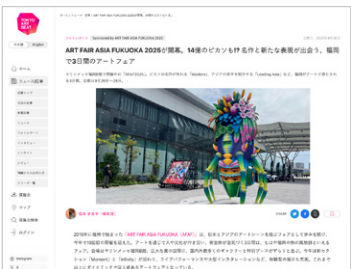
西日本新聞 (9/25 経済欄) / 毎日新聞 / 読売新聞 (Web・紙面掲載含む) / ふくおか市政だより ※一部紙面・Web 両方掲載あり

ラジオ 計 1件

MBCラジオ



美術手帖



Tokyo Art Beat

Advertising

交通広告および会場周辺広告

会場外からフェアを発信

AFAF2025の開催にあわせ、会場外でも広くフェアの魅力を発信しました。福岡県内を走る西鉄天神大牟田線・西鉄貝塚線では、駅構内広告や車内中吊り広告を展開し、通勤・通学など日常の移動中にも目に留まる形で情報を届けました。また、大博通りにはバナーフラッグを掲示し、街を歩き交う人々に AFAF2025の存在感を発信しました。

さらに、今年8月に大丸福岡天神に新設されたARTギャラリー&カフェでは、約9m×2.4mの大型LEDビジョンにてAFAF2025のプロモーション映像を放映。来場者はもちろん、通りかかる人々にもイベントの雰囲気を体感してもらえる機会を創出し、フェアの期待感を広く高める取り組みとなりました。

協賛：西日本鉄道株式会社



電車中吊り広告



大博通りバナーフラッグ



大丸福岡天神ARTギャラリー&カフェの大型LEDビジョン

Volunteer Staff

ボランティアスタッフ

アートフェアを支える立役者

9月24日(水)の設営日から会期中の9月25日(木)～9月28日(日)にかけて、過去最多となる延べ150名以上のボランティアスタッフが参加しました。会場のあらゆる業務に積極的に関わり、丁寧かつ心のこもったサポートでフェア運営を支えていただきました。ART FAIR ASIA FUKUOKAは、こうした多くのボランティアの皆様のおかげでこそ毎年成り立っています。温かく、行き届いたサポートは、フェア全体に心地よい一体感と安心感をもたらし、来場者がより豊かなアート体験を楽しむことを可能にしています。改めて、この度ご協力いただいたすべてのボランティアの皆様に、心より深く感謝申し上げます。

Volunteer Director 永光 春菜
Volunteer Manager ジョニー・タシロ



設営準備中のボランティアスタッフ



運営スタッフから説明を受けるボランティアスタッフ



ボランティアスタッフはAFAFオリジナルTシャツを着用

Visitor Survey

来場者アンケート

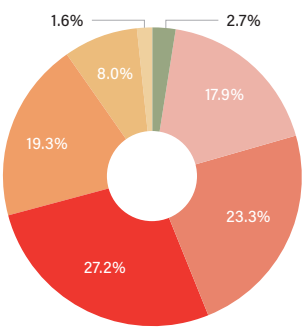
地域に根づく福岡のアートマーケット

AFAF2025来場者向けのアンケートの集計結果です。昨年に引き続き福岡を中心とした地元来場者の割合が高く(約80%)、地域密着型のアートマーケットとしての特徴がより強まっていることが分かります。「初めて来場した」と回答した人も7割を超えており、新規来場者の獲得にも成功しています。

回答期間：2025年9月25日～10月19日
アンケート手法：Web回答
言語：日本語・英語
有効回答数：約1,900

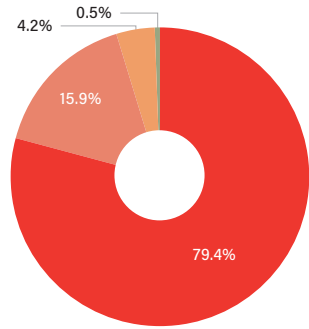
1. 年齢層

- 10代
- 20代
- 30代
- 40代
- 50代
- 60代
- 70代以上



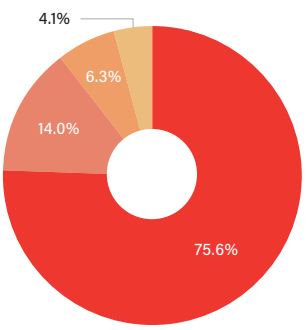
2. 居住地

- 福岡県
- 福岡以外の九州+山口
- 国内その他
- 海外



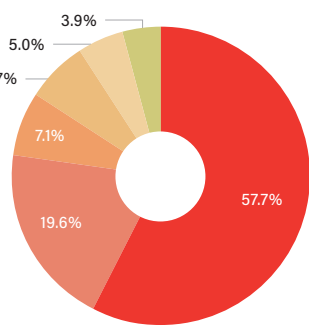
3. AFAF 来場回数

- 1回目
- 2回目
- 3回目
- その他



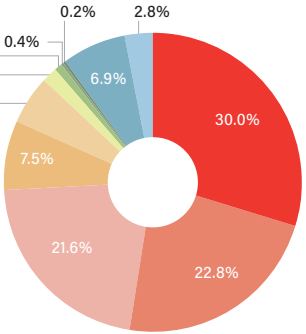
4. 来場目的

- 現代美術に興味がある
- ギャラリーに興味がある
- 観光
- 作品購入
- 仕事の情報収集
- その他



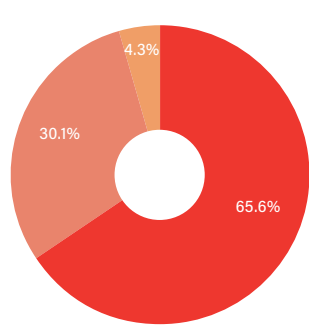
5. AFAF2025 を知ったきっかけ

- SNS・ブログ
- ウェブサイト
- 家族・友人・知人
- インターネット広告
- ギャラリー関係者
- ダイレクトメール・チラシ
- 雑誌や書籍
- メールマガジン
- ラジオ
- その他
- 無回答



6. AFAF2025 満足度

- 大変よかった
- 良かった
- 普通
- 良くなかった (回答なし)
- 悪かった (回答なし)



Organization

運営組織

Director

阿部 和宣 (一般社団法人アートフェアアジア福岡 代表理事 / みぞえ画廊 専務取締役)
森田 俊一郎 (一般社団法人アートフェアアジア福岡 理事 / ギャラリーモリタ 代表)
井上 雅也 (一般社団法人アートフェアアジア福岡 理事 / 株式会社TODOROKI 代表取締役)

Selection Committee

阿部 和宣 (一般社団法人アートフェアアジア福岡 代表理事 / みぞえ画廊 専務取締役)
森田 俊一郎 (一般社団法人アートフェアアジア福岡 理事 / ギャラリーモリタ 代表)
石橋 高基 (KOKI ARTS)
井上 雅也 (一般社団法人アートフェアアジア福岡 理事 / 株式会社TODOROKI 代表取締役)

Special Advisor

宮津 大輔

Global Executive Advisor

三田 丞次

Art Director

平野 萌乃 (株式会社TODOROKI)

Executive Office

土屋 裕仁 / 玉井 徳真 / 中島 咲璃 / 座間 エイミ / 牛込 麻依 / 吉田 真尋 / 村山 純夏 / 西村 久子 / 笠原 海音 / 中村 日向子 / 北田 日奈子 /
渡辺 薫 / 小野寺 りか / 羽部 康裕 / 櫻井 史恵 / 竹村 晴 / 上杉 海玲 / 松野 仁志 / 松本 千都 / 中川 琴海 / 布谷 央衣 / 石井 茉羽 /
土屋 皓平 / 八田 裕貴
(株式会社TODOROKI)

Photo & Video

Hiroyuki Mori / Kenta Nagoshi / Yuya Asada / 河津 一郎 / さかもとねいろ





artfair.asia

一般社団法人アートフェアアジア福岡

General Incorporated Association ART FAIR ASIA FUKUOKA

info@artfair.asia